

# 人生百年時代？

本川達雄さんの『ゾウの時間・ネズミの時間』が大変なロングセラーである。その続編が『人間にとつて寿命とはなにか』だが、これがまた実に面白い。動物は心臓が一五億回打つと、みな死を迎えるそうだ。ゾウもネズミも同じである。人間の場合で四十一・五歳になれば鼓動一五億回だという。

日本人の平均寿命は、男性でほぼ八十一歳、女性で八十七歳、双方とも世界第二位である。なぜ人間のみがこれほどの長命なのか。医療、上下水道、食糧増産、冷暖房、冷蔵庫、等々の技術の賜物である。これららの技術には大量のエネルギーがいる。つまり人間はたっぷりとエネルギーを支払って、長命といふ時間を「買っている」のだ。だから長命の人間は、技術によって造り出された「人工生命体」と本川さんはい。五十歳を過ぎたあたりから癌の発症率は急速に高まるが、これは異常ではない。癌に罹患するほど長生きすることが異常なのだともいう。

高齢者が人工生命体だという本川さんの主張は、別の観点からそう感じていた私には、大変に説得的

渡辺利夫

(拓殖大学事務顧問)

一九三九年、山梨県生まれ。七〇年、慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了。経済学博士。筑波大学、東京工業大学教授などを歴任。拓殖大学国際開発学部学部長、学長、総長などを経て、一〇一五年十一月より現職。

に感じられる。平均寿命が延びたのだから、健康寿命も延びていくのなら結構だが、それはいかない。厚生労働省の統計によると、健康寿命も延びてはいるものの、平均寿命の延びとほぼバラールである。平均寿命と健康寿命の差が「日常生活に制限のある、健康ではない生存期間」だが、これが日本人男性でほぼ九年、女性十三年くらいだと厚労省の統計にある。まあそんなものだろうと、身内の者たちをみていて私も感じる。なかには中心静脈栄養の輸液やら胃瘻、人工呼吸器などを施されている者もいる。世界で最高レベルの日本人の平均寿命のうちの相当部分が、こういった過酷な運命を強いられた者たちなのではないか。

「人生百年時代」などといふスローガンも、いい加減にしないと、自然生命体としての人間の死に逆らう、現代医療の詐欺まがいの商法に多くの日本人を追い込むことになりかねない。私も八十歳に近い。みずからが人工生命体であることをつねに心しておきたい。